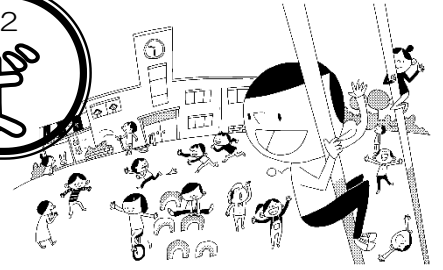


どうとくのひろば



1年生の道徳の授業

主題名：わがままを おさえて

ねらい：【節度、節制】

わがままをしないで生活を送ることが快適な毎日につながることに気づき、進んで周囲に対する気配りや思いやりをもち、安全のきまりを守って気持ちのよい生活を送ろうとする心情を育てる。

教材名：「かぼちゃのつる」

あらすじ：自分の畑が空いているにもかかわらず、人が通る道につるを伸ばすなど、みんなの忠告を聞かずに、わがままな振る舞いをしたかぼちゃの姿を描いている。

授業での具体的な様子

教材文を読んだ子供たちは、「かぼちゃさんがわがままだよ」「はちさんやちょうちょさんたちの言うことをちゃんと聞いていないよ」などと感想をもちました。そこで、まずはハチやチョウに話しかけられたときのかぼちゃの気持ちについて想像しました。「周りのことなんか関係ないよ。ぼくがつるを伸ばしたいんだ」「みんなうるさいな。放っておいてくれないかな」など、友達の忠告を聞かずに自己中心的な思いから行動するかぼちゃになりきって発表していました。

次に、トラックにつるを踏まれて泣いているかぼちゃの気持ちについても役割演技をしながら考えました。「つるを切られて痛いよう。みんなの言うことをちゃんと聞いたらよかった」「人の通るところにつるを伸ばしてごめんなさい」などと、自分の行動を後悔するかぼちゃの気持ちに気づきました。

その後、かぼちゃにどんなことを教えてあげたいか問かけると、「わがままをしないで人の話を聞いたらいいいんだよ」「これからは、みんなの迷惑になることはしただめだよ」「次からはしないでね」という意見が出ました。そして、話し合っていく中で、わがままをしないで生活すると誰もが笑顔になることを捉えました。

最後に、自分たちもかぼちゃさんのようなわがままを言っていないか振り返りました。子供たちからは、「わがままだったかもしれないな。これからはみんなのためにわがままを言わないようにしたいな」などと正直に自分の言動を振り返る発言がありました。

一年生の段階は、発達の特性から自己中心的な言動をとることがあるかもしれませんが、自分だけでなく、周りの人たちも楽しい気持ちで生活するために、周囲に対する思いやりの心を忘れずに生活してもらいたいです。



切り取り

道徳だよりへのご質問・ご感想

() 年 () 組 児童名 ()

